

令和5年度 「家庭総合」 シラバス（4単位を2学年にわたって履修する…各学年で2単位ずつ履修）

「家庭総合」	単位数	2 単 位
	学科・年次・学級	2年次 みらい福祉科、普通科（クリエイティブアーツコース・普通コース）

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書・副教材等	「家庭総合」－明日の生活を築く－ 開隆堂

2 学習計画及び学習のねらい

月	単元名	学 習 項 目 「いつ何を学ぶのか」	学習のねらい 「何ができるようになるのか，どのような力が身に付くことをめざすのか」	評価方法
4		2年次「家庭総合」の学習について	・家庭総合の学習の意義や内容，学習や評価方法を理解する。	
	第2章 着る	人間と被服 被服の科学と管理 被服の選択と安全 衣生活の文化 被服をつくる 持続可能な衣生活	・時と場合，目的に適した被服材料や被服の構成及び被服の機能をいかした適切な着装を考える。 ・着装に関心を持ち，自分の個性をみつめて自分らしい着装について考える。 ・組成表示や取扱表示を確認し，着心地や管理を考えた被服の選択ができる力を身につける。 ・被服材料の性能改善と着心地などについて考える。 ・どのようにすれば健康で快適な衣生活を送ることができるのか考える。 ・洗濯や手入れなど，自ら衣服を管理する知識と技術を身につける。 ・和服と洋服の構成上の特徴や被服材料，着用の特徴を理解し，衣服製作の基本を知り，日常生活に必要な基本的な縫い方の技術を習得する。	・授業態度 ・ワークシート ・プリント学習 ・ノート提出 ・被服製作 ・定期考査
	第1部 人とかかわって生きる 第1章 自分を見つめる	人の一生と青年期 青年期を生きる 将来を見通しこれからを生きる 自分が拓く人生	・生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解する。 ・長い人生の中の「今」という文脈で，青年期にある自分を見つめなおすことを通じて，これからの人生をどう生きていくかを改めて考える。 ・自己理解，心身の自立や生活者としての自立などを理解し，青年期の生き方について考える。 ・「青年期」がどのような時期かを知るとともに，これからの生き方や方向性について考える。	・授業態度 ・ワークシート ・プリント学習 ・ノート提出
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・ホームプロジェクトと家庭クラブについて理解し，生活の課題解決をめざし，ホームプロジェクトの実践を行う。	
	第2章 家族・家庭と社会	個人・家族と地域・社会 家族と法律 持続可能な家庭生活	・家族が家族個人の発達に果たしている機能と社会に対して果たしている機能について，それぞれの歴史的变化，文化や社会による特徴を理解する。 ・日本の親子関係，夫婦関係の現状をおさえながら，現代家族の特徴について考える。 ・婚姻，夫婦，親子などに関する法律の基礎的知識を理解する。 ・家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的知識を理解する。 ・これからの家族の多様性が尊重されることや家族一人ひとりの基本的人権が守られることが大切であることを理解し，困難がある場合の対応策などを考える。 ・子どもと実際にかかわり，子どもは生活の中で人とかかわりを通して育つことを理解する。 ・子どもを育てることは社会的意義や両性がかかわることの意義について考える。	・定期考査 ・レポート作成

第3部 生活をつくる 第1章 消費者市民への道  第2章 生涯の生活設計	収入支出 貯蓄と負債 世界とつながる家計 消費生活の落とし穴 行動する消費者 消費生活の裏側で 消費者として取り組む 持続可能な社会とライフスタイル リアルな課題で生活設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で様々なリスクへの対応や回避についてこれまで学んできたことを活かす。</li> <li>将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解する。</li> <li>自らの消費行動によって、環境負荷を低減させ、進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを実践できるよう考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度</li> <li>ワークシート</li> <li>プリント学習</li> <li>ノート提出</li> <li>定期考査</li> <li>レポート作成</li> </ul>
---	--	--	---

### 3 評価の観点、内容および評価方法

評価の観点	評価の内容と方法		
関心・意欲・態度	・衣食住などについて関心をもったか。	・ワークシート，レポートへの取り組み	
思考・判断・表現	・衣食住などについて，自らが課題を見いだしているか。	・定期考査	・ワークシート，レポートの考察内容
技能	・衣食住などに関する技術を総合的に身に付けているか。	・ワークシート，レポート	
知識・理解	・衣食住などについて理解したか。	・定期考査	・ワークシート レポート

### 4 各学期と年間の評価方法

●各学期ごとの評価は、定期考査またはレポートを60%、その他(課題・態度・出席等)の評価を40%として総合的に評価します。
●年間の評価は、前・後期の成績を総合的に評価します。

令和5年度 家庭総合シラバス

科目名	単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書
家庭総合	2	4	みらい福祉科・普通科	2	必修	開隆堂

特記事項

科目目標

(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。【知識及び技術】

(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】

(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

年間指導計画表

月	予定時数	実施時数	指導項目	指導内容（教科書P）	評価の観点			評価規準【評価方法】			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
前期 4月～ 9月・ 後期 10月～ 3月	32		(2)衣生活と健康 (2)衣生活の科学と文化	人間と被服 (P.154～159)	○	○	○	・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解するとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けている。 【ワークシート・定期テスト】	・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて課題を設定している。 ・主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について考察し、工夫している。【ワークシート・発表・作品】	・様々な人々と協働し、よりよい社会構築に向けて、健康で快適な衣生活を営むために、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。【作品・行動観察】	
				被服科学と管理 (P.160～167)	○	○	○				
				被服の選択と安全 (P.168～171)	○	○	○				
				衣生活の文化 (P.172～175)	○	○	○				
				被服をつくる (P.176～183)	○		○				
				持続可能な衣生活 (P.184～189)	○	○	○				
7月	2		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 (P.250～255)	○	○	○	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。【ワークシート】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。【ワークシート】		
前期 4月～ 9月	12		(1)生涯の生活設計 (2)青年期の自立と家族・家庭	人の一生と青年期 (P.12～15)	○	○	○	・人の一生について、自己と他者社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために、生涯を通して、生活課題に対応し、意思決定をしていくことの重要性を身に付けている。 ・青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解している。 ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会とのかわりについて理解している。【ワークシート・定期テスト】	・生涯を見通した自己の生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・生活資源を活用して生活設計を考え、工夫している。 ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことへの重要性について考え、工夫している。【ワークシート・発表】	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯を見通し主体的に取り組もうとしている。 ・自分や家庭、地域の生活の充実向上をめざして実践しようとしている。 ・青年期の自立について、課題の解決の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。【ワークシート・行動観察】	
				青年期を生きる (P.16～19)	○	○	○				
				将来を見通しこれからを生きる (P.20～27)	○	○	○				
				自分が拓く人生 (P.28～33)	○	○	○				
				個人・家族と地域・社会 (P.34～37)	○	○	○				
				家族と法律 (P.38～41)	○	○	○				
				持続可能な家庭生活 (P.42～49)	○	○	○				
前期 4月～ 9月	8		(1)生活における経済の計画	収入と支出 (P.216～219)	○	○	○	・家計の構造について理解するとともに、生活における経済と社会との関わりについて、理解を深めている。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、収集・	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論	様々な人々と協働し、よりよい社会構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図	
				貯蓄と負債 (P.220～221)	○		○				



令和5年度 「家庭総合」 シラバス（4単位を2学年にわたって履修する…各学年で2単位ずつ履修）

「家庭総合」	単位数	2 単 位
	学科・年次・学級	3年次 未来福祉科、普通科（クリエイティブアーツコース・普通コース）

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書・副教材等	「家庭総合」－明日の生活を築く－ 開隆堂

2 学習計画及び学習のねらい

月	単元名	学 習 項 目 「いつ何を学ぶのか」	学習のねらい 「何ができるようになるのか、どのような力が身に付くことをめざすのか」	評価方法
4		3年次「家庭総合」の学習について	・家庭総合の学習の意義や内容、学習や評価方法を理解する。	
5	第3章 子どもの発達と保育・福祉	1. 子どもの発達と生活 2. 子どもとかわる 3. 親の役割と子育て支援 4. 子どもの権利と福祉	・子どもの発育・発達には、個人差があるが一定の順序と共通性があることを理解し、周囲のおとなの役割、養育態度の関係について考える。 ・子どもと実際にかかわり、子どもは生活の中で育つことを理解する。 ・愛着形成や将来の人間関係の基盤について考え、保育の責任は親と社会の支援であることを理解する。 ・近年の子どもを取りまく環境の変化について考える。	・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度
	第4章 高齢者の生活と福祉	1. 高齢者とかわり理解する 2. 高齢者の生活と課題 3. 人間の尊厳とケア 4. 高齢社会の福祉	・高齢者と話す体験などを通して高齢者について理解する。 ・生涯を見通して高齢期をとらえるとともに、高齢者の心身の変化と特徴や生活について理解する。 ・高齢者の意思や尊重、残存能力を生かす生活支援の在り方について考える。 ・相手のニーズやペースに合わせることなど、コミュニケーションの重要性について考える。 ・高齢化の特徴や住居地域の高齢化の状況について考える。 ・高齢期を豊かに、魅力的に生きるには何が必要か考える。	・ワークシート ・プリント学習
6				
7	第5章 共生社会における地域や家族	1. リスクに備える 2. 共生社会に向けて	・様々なリスクに遭遇する可能性があることに気づき、社会福祉の種類と活用を理解する。 ・人と人とのネットワークや社会制度について考える。 ・ノーマライゼーションの理念を土台とした社会をつくることが重要であることを理解する。	
	第2部 生活を営む 第3章 住まう	1. 人間と住まい 2. さまざまな住まいと暮らし方 3. 快適な住まい 4. 安全な住まい 5. まちづくりと住まい	・生活様式や住居の形が、社会制度や文化の変遷に応じて変化してきたことを理解する。 ・家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができるように、必要な知識と技能を習得する。 ・快適かつ健康に過ごすために必要となる機能について理解する。 ・安全で耐久性のある住居に必要な機能について理解する。 ・住まいとまちのかかわりを考える。	・授業態度 ・ワークシート ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査
9				
10				

			・住環境にかかわる社会的なしくみについて理解する。	・新聞製作
11	第1章 食べる	1. 人間と食べ物	・栄養を満たす食事のために、基礎的・基本的知識を身につける。	・授業態度
12		2. 食品と栄養	・日常の献立の手順を理解し、食品群別摂取量のめやすを満たす1日分の献立について考える。	・ワークシート
		3. 食品の衛生と安全	・調理による色、味、テクスチャーなどの変化を食品成分の変化とかかわらせて科学的に理解する。	・プリント学習
1		4. 食事を調える	・それぞれの調理法の特徴について、調理器具の特徴や取り扱い方などとも関連し理解する。 ・環境保全につながる様々な取り組み、内容を理解し、望ましい食生活のり方を考える。 ・各ライフステージにおける食生活の課題を理解する。 ・日常用いられる食品から栄養的な特質等を理解する。 ・食品の腐敗、食中毒、食品添加物について理解する。 ・食品情報を正しく理解できる消費者になる大切さを考える。	・ノート提出 ・定期考査 ・新聞製作

### 3 評価の観点、内容および評価方法

評価の観点	評価の内容と方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや高齢者との関わりと福祉について関心をもったか。</li> <li>・衣食住などについて関心をもったか。</li> <li>・生活の充実向上を目指そうとしているか。</li> <li>・学んだことを生活に生かそうとする実践的な態度を身につけたか。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや高齢者との関わりと福祉について、自らが課題を見いだしているか。</li> <li>・衣食住などについて、自らが課題を見いだしているか。</li> <li>・課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断する力を身に付けているか。</li> <li>・自らの考えを工夫し創造する能力を身につけているか。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや高齢者との関わりと福祉に関する技術を総合的に身に付けているか。</li> <li>・衣食住などに関する技術を総合的に身に付けているか。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや高齢者との関わりと福祉について理解したか。</li> <li>・子どもや高齢者との関わりと福祉に関する知識を総合的に身に付けているか。</li> <li>・衣食住などについて理解したか。</li> </ul>

### 4 各学期と年間の評価方法

●各学期ごとの評価は、定期考査・または新聞製作を60%、その他(課題・態度・出席等)の評価を40%として総合的に評価します。
●年間の評価は、前・後期の成績を総合的に評価します。

## 令和5年度 家庭科シラバス

科目名	服飾手芸		学年	3年次	教科書	特になし
	単位数	2単位	副教材	家庭科技術検定問題集より作成		
学習目標	わが国、各国の手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。					
学期	学習内容			学習のねらい		課題・提出物予定等
前期	4	★服飾手芸を学ぶにあたって		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手の技から生まれる身近な作品を作る喜びと、主な手芸の種類や技法を知らせる。</li> <li>・基本的な手縫いの技術、ミシン縫いの技術を身につけることにより作品が、より丁寧に美しく能率的に仕上がるようにする。</li> <li>・縫い物の基礎的な技術を身につける。</li> <li>・手縫いの技術を生かして、作図案どおりに縫う。</li> <li>・アイロンかけの技術を身につける。</li> <li>・これまで学んできた学習内容の基礎的な部分の習得を確認するとともに、資格取得をさせることにより生徒の学習意欲を高める。</li> <li>・これまで学んだ内容を生かしながら被服製作技術検定4級を受験し、より高度な技術の習得に挑戦する。</li> <li>・被服製作技術検定の取り組みで得た基礎的な技術を発展させ、被服製作および衣生活の経営に生かせる能力を身につける。</li> </ul>	前期の評価は被服製作技術検定4級の結果及び各種作品の提出を持ってあてる。
		★縫い物の基本		7		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の名称</li> <li>・手縫い（並縫い・本返し縫い・半返し縫い・まつりぬい・ボタンつけ等）</li> </ul>				
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンの操作（下糸の巻き方・上糸のかけ方・糸調子・返し縫い・直線縫い・曲線縫い・角での方向の換え方等）</li> </ul>		14		
	6	★被服製作技術検定4級取得に向けて				
7	★被服製作技術検定4級受験		8			
9	★アウターパンツの製作 (被服製作技術検定3級程度)		8			
後期	10			18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んだ手芸の技術を応用・発展させ、自分の作りたい作品に挑戦することにより、よりレベルアップした技術・技能を身につける。</li> </ul>	各種作品の提出をもって評価する。
	11					
	12	課題		14		
	1 2	★自由作品の製作				
評価の方法・観点			評価の観点は、関心・意欲・態度をベースに、技術検定の可否、製作作品の評価、出席状況等を総合的に評価する。			

<p>関心・意欲・態度</p>	<p>手芸に関心を持ち、手芸品を意欲的に製作し、服飾に活用する態度を身につけようとする。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>手芸品を創造的に製作し、服飾に活用することができる。</p>
<p>技能</p>	<p>手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する技術を習得することができる。</p>
<p>知識・理解</p>	<p>手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識を習得することができる。</p>



## 令和5年度 家庭科シラバス

科目名	フード デザイン	学年	3年次	教科書	特になし
		単位数	2単位	副教材	特になし
学習目標	<p>栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。</p> <p>食物技術検定4級取得を目指す。</p>				
学期	月	学習内容	学習のねらい		レポート作成 課題・提出物予定 等
前期	4	<p>オリエンテーション</p> <p>第1章 健康と食生活</p> <p>1 食事の意義と役割</p> <p>①なぜ食べるのだろうか</p> <p>2 食を取り巻く現状</p> <p>①自分の食生活を振り返ろう</p> <p>②栄養素等の状況</p> <p>③食の外部位</p> <p>④食品はどこから来るのか</p> <p>⑤食生活と環境</p> <p>⑥これからの食生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理室の使い方、評価の方法等について説明する。</li> <li>・食べることは生きるための意味合いだけでなく、さまざまな意味があることを理解し、食事と団らの重要性を知る。</li> <li>・飽食の時代にありながら、過不足栄養素について把握でき、どうすれば解決できるか考える。</li> <li>・現代人の「食」に関する問題点と課題が理解できる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ワークノートを毎時間記入する。</li> <li>・豆テスト</li> </ul>
	5	<p>第2章 栄養素・食品の特徴</p> <p>1 栄養素のはたらき</p> <p>①からだの仕組み、栄養素の役割</p> <p>②消化・吸収</p> <p>③からだの維持</p> <p>2 健康に必要な栄養素</p> <p>3 食品の特徴</p> <p>4 食品加工の目的</p> <p>5 食品の選択と取り扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物摂取の必要性や健康を維持するために必要な栄養摂取量、ライフステージごとの栄養摂取の特徴を理解する。</li> <li>・各栄養素の必要性を理解し、バランスよく摂取する重要性を理解する。</li> <li>・さまざまな食品について、特徴とその調理性、加工について理解する。</li> <li>・食品の鑑別方法を理解し、食品の良否が見分けられるようにする。</li> <li>・健康で自立した生活を送るうえで、食に関する正しい知識を身につけることが重要だという認識をもち、安全な食品を選択するための知識や態度を身につける。</li> </ul>		
	6 7	<p>●食物調理技術検定4級の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養素・食品・器具や調理技術の定着のための学習とともに、資格取得に向けて対策を行う。</li> </ul>		

前期	9	<p>第3章 調理と献立</p> <p>1 調理の基本</p> <p>①調理の目的</p> <p>②食べ物のおいしさ</p> <p>③調理操作</p> <p>2 ライフステージと食事計画</p> <p>①食事摂取基準</p> <p>②食事バランスガイド</p> <p>③ライフステージと栄養</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理は食品を食事の目的に合うようにつくりかえることであることを理解する。</li> <li>・調理器具や調理の方法を知ることので実際の調理をする前の下地作りをする。</li> <li>・年齢や性別、運動量などによって、必要とされる栄養素に違いがあることを知り、ライフステージごとの特徴を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豆テスト</li> </ul>
後期	10 11 12 1 2	<p>3 献立作成</p> <p>①献立作成の留意点</p> <p>②献立作成</p> <p>4 様式別の献立と調理・食卓作法</p> <p>①日本料理</p> <p>②西洋料理</p> <p>③中国料理</p> <p>④各料理のマナーと基本的なサービスの方法</p> <p>5 食文化をみつめる</p> <p>6 テーブルコーディネート</p> <p>第4章 調理実習</p> <p>○日常食の献立・料理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和風料理</li> <li>・洋風料理</li> <li>・中国料理</li> <li>・弁当</li> </ul> <p>○行事食</p> <p>○エコクッキング</p> <p>○食物実験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常食の意義や献立作成の要点を理解できる。日常食の献立を作成する意欲や実践的態度を身につける。</li> <li>・各様式別料理の特徴を理解する。</li> <li>・各様式の献立作成、食卓構成、作法を理解する。</li> <li>・各様式に適した献立作成や供応に伴うマナーを身につける。</li> <li>・テーブルコーディネートの基本をふまえ、食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作りの技術を身につける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常食の調理について、家庭総合等で習得した技術に加え、さらに高度な技術を習得する。</li> <li>・食品衛生と安全に十分配慮して、食品を適切に扱うことができるようにする。</li> <li>・主な調理操作を習得することにより、能率良くおいしく作ることができるようにする。</li> <li>・各料理に合った盛り付けや目的に合った食卓を整えることができる。</li> <li>・行事食の意義や献立、調理について理解する。</li> <li>・テーブルコーディネートの基本事項をふまえ、食事のテーマにふさわしい食卓の整え方ができる技術を身につける。食べる人に配慮したサービスの方法とマナーを身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ワークノートを毎時間記入する。</li> <li>・豆テスト</li> <li>・実習の際の服装指導・安全指導</li> <li>・豆テスト</li> </ul>
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況、ワークシート等の提出</li> <li>・授業への関心・意欲・態度</li> <li>・調理実習の意欲・関心・態度</li> </ul> <p>・各学期ごとの評価は、レポート60%、その他（課題、態度、出席など）の評価を40%として総合的に評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回のレポート作成</li> <li>・食物調理技術検定4級の受検</li> <li>・衛生・安全面の指導に留意する。</li> </ul>	

<b>関心・意欲・態度</b>	<p>食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。</p>
<b>思考・判断・表現</b>	<p>自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。</p>
<b>技能</b>	<p>調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。</p>
<b>知識・理解</b>	<p>食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。</p>

## 令和5年度 家庭科シラバス

科目名	子ども文化		学年	3年次	教科書	特になし
			単位数	2単位	副教材	子ども文化（文部科学省） 子どもの発達と保育（教育図書） 専門書等より資料作成
学習目標	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得させ、子ども文化の充実を図る能力と態度を育てる。					
学期	月	学習内容	学習のねらい		定期考査 課題・提出物予定等	
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>【子ども文化とは何だろう】</li> <li>(1) 子ども文化とは</li> <li>(2) 子ども文化を歴史から見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものための文化活動、児童文化財等の重要性について理解させる。</li> <li>・社会の変化に伴い、子どもの遊びの環境が変化する中での児童文化の役割について考えさせる。</li> <li>・子どもの遊びの重要性及び遊びの種類と発達とのかかわりについて理解させる。</li> <li>・伝承遊びについて知るとともに、遊びと遊具とのかかわり、遊具の遊び方や与え方などを学ぶ。</li> <li>・子どもの表現活動の意義とそれを支える児童文化財の重要性について事例を通して具体的に理解する。</li> </ul>		ワークシート提出	
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>【子どもと遊び】</li> <li>(1) 遊びの意義と発達</li> <li>(2) 遊びの現状</li> <li>(3) 遊びと遊具・玩具</li> <li>(4) 遊びと伝承</li> </ul>			課題の提出 児童文化財の製作	
	6					
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>【子どもの表現活動】</li> <li>(1) 子どもの表現活動のおもしろさ</li> </ul>			朗読発表	
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 造る・描く</li> <li>(3) 言語表現活動</li> <li>(4) 歌う・踊る・演奏する</li> <li>(5) 保育園における表現活動の実態</li> </ul>				
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>【子どもと文学】</li> <li>(1) 素話</li> <li>(2) 紙芝居</li> <li>(3) 絵本</li> </ul> <p>●保育技術検定4級</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や紙芝居、児童文学などを鑑賞し、絵本の大切さや子どもへどのような効果があるか理解する。また読み聞かせが上手にできるようにする。</li> <li>・折り方図をみて折り紙を折ることができるようにする。</li> </ul>		ワークシート提出 絵本の読み聞かせ  作品提出	

後期	11	●保育技術検定4級  【現代の子どもの生活と文化】 (1) テレビ、キャラクターゲーム (2) 子どもと年中行事	・折り方図をみて折り紙を折ることができるようにする。 ・「魚」、「動物」、「鳥」、「植物」、「その他」の5種類の作品を折ることができるようにする。	作品提出
	12		・テレビ、キャラクター、ゲームについて認識を深める。 ・子どもと年中行事の関わりについて学習し、折り紙等を利用し、年中行事に関心をもつ。	ワークシート提出
後期	1	【幼児の遊びの観察と保育実習】	・保育実習を行うにあたっての事前学習 ・保育実習を計画し、子ども達との交流体験をする。 ・保育実習を終えてのまとめ及びグループ発表	折り紙の作成 行事の壁画作成
	2			ワークシート提出 保育実習
	3	【子ども文化を支える活動】 (1) 児童文化活動 (2) 児童文化のための施設	・子どもの健全な遊びや表現活動を支える代表的な施設を取り上げその意義と活用について考える。	
観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査 (年2回)</li> <li>・ ワークシートの提出</li> <li>・ 保育技術検定4級の作品点</li> <li>・ 絵本の読み聞かせ、遊具作り等の創作活動、保育実習を総合的に評価する。</li> </ul>			
事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習では安全面、衛生面の指導を行い、事故のないよう留意する。</li> </ul>			

関心・意欲・態度	子どもに関心を持ち、子ども文化の役割を意欲的にとらえる態度を身につけようとする。
思考・判断・表現	子どもの遊びの種類や重要性を学び、表現活動へと発展させることができる。
技能	遊びと遊具との関わりや大切さを知り、遊具製作や活用法などに関する技術を習得することができる。
知識・理解	子ども文化の意義と役割について理解するとともに、子どもの健全な生活に関する知識を習得することができる。



後期	10・11	保育技術検定	【保育技術検定4級対策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り方図をみて折り紙を折ることができるようにする。</li> <li>・「魚」、「動物」、「鳥」、「植物」、「その他」の5種類の作品を折ることができるようにする。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統文化として親しまれ、広く普及している「折り紙」を幼児とのコミュニケーション手段として活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・ワークシート</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期テストなど</li> </ul>
	12	現代子どもの生活文化	【現代の子どもの生活と文化】 1 テレビ、キャラクター、ゲーム 2 子どもと年中行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ、キャラクター、ゲームについて認識を深める。</li> <li>・子どもと年中行事の関わりについて学習し、折り紙等を利用して年中行事に関心をもつ。</li> </ul>	○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ、キャラクター、ゲームが子どもの生活に与える影響について理解することができる。</li> <li>・子どもと年中行事の関わりについて理解し、季節に応じた折り紙等の作品を作ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材の活用</li> <li>・折り紙</li> </ul>
	1・2	保育実習	【幼児の遊びの観察と保育実習】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習を行うにあたっての事前学習</li> <li>・保育実習を計画し、子ども達との交流体験をする。</li> <li>・保育実習を終えてのまとめ及びグループ発表する。</li> </ul>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習において安全に配慮し、子どもと適切にかかわったり観察することができる。</li> <li>・保育実習の記録をまとめ、成果を発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・実習レポート</li> <li>・グループワーク</li> <li>・発表</li> </ul>
	3	支える文化活動	【子ども文化を支える活動】 1 子ども文化活動 2 子ども文化のための施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健全な遊びや表現活動を支える代表的な施設を取り上げ、その意義と活用について考える。</li> </ul>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに配慮された各種の施設の意義と活用について理解することができる。</li> </ul>	